

病気の子どもに携わる多職種が連携するための勉強会

子どもたちに生きる力を!!

私たちに今できること

～ 入院や通院が必要な小児がんの子どもたちについて ～

参加対象

小学校から高等学校・特別支援学校の担任や保健室の先生、医療関係者、保護者、学生など

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院

小児科 納富 誠司郎 先生

2005年 奈良県立医科大学卒業。
京都大学医学部附属病院などで小児医療、
特に小児がんの診療に従事する。
2017年より倉敷中央病院にて、小児がん診療を
開始。シームレスな長期療養を目指して様々な
ことにチャレンジしている。

【対談ファシリテーター】

2児の母としてゲストの思いを深掘り
フリーアナウンサー

中村 恵美 氏

福岡県出身、玉野市在住。1997年山陽放送入社。
現在はRSKラジオのパーソナリティを担当。
絵本セラピスト(R)・アンガーマネジメントの
講座などを開催するほか、岡山NPOセンター
理事を務める。

認定特定非営利活動法人
ポケットサポート

代表理事 三好 祐也 氏

5歳で慢性ネフローゼ症候群を発症し、義務教育
のほとんどを岡山大学病院(院内学級)で過ごす。
その経験から母校の院内学級で学習支援ボラン
ティア活動を始め、岡山大学大学院で病弱教育
を研究。2015年にNPO法人ポケットサポート
設立。座右の銘は「病気だけど誰より元気！」

2020年に岡山県内の649校を対象に実施した調査で長期療養児
が復学する際に気がかりなこととして、次の3点に多くの先生方が
不安や悩みを抱えていることが明らかになりました。

- ①児童生徒の体調管理
- ②活動や運動の制限と許可の程度
- ③病気に関する正しい情報

この勉強会では主に白血病に代表される小児がんの治療が必要な
子どもに、どんな入院治療が必要なのか、そして少しずつ復学する
際に、どんな配慮が必要なのかを一緒に学びたいと思います。

開催日時

2021年10月23日(土) 13時～15時 ※詳細は裏面参照

会場

YouTube ライブ配信にて生中継(ライブチャットで質問可能)

参加費

参加無料 ※10月22日(金) 15時までに事前申込が必要

主催：認定特定非営利活動法人ポケットサポート 助成：公益財団法人ベネッセこども基金
※新型コロナウイルス感染拡大防止のためYouTubeLiveにてポケットサポート事務所から生配信します。

公益財団法人
ベネッセこども基金

お問い合わせ

ポケットサポート事務局(所在地：岡山市北区奥田本町22-2)

イベント詳細 WEB

<https://www.pokesapo.com/yb2>



タイムスケジュール

13:00～13:10
開会挨拶・登壇者紹介

13:10～13:50 Talk 1 (40分)

小児がん治療が必要な子どもの治療と 学校復学時における配慮ポイント

【講師】

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 小児科 納富 誠司郎 先生

休憩 (10分) CMなどを配信予定

14:00～14:40 Talk 2 (40分)

入院中から退院・復学後まで 子どもたちを包括的に支える取り組み

・認定NPO法人ポケットサポート
代表理事 三好 祐也 氏

休憩 (5分) CMなどを配信予定

14:45～14:55 振り返りトーク (10分)

ライブチャットに書き込まれた質問回答

14:55～15:00

閉会挨拶・参加者アンケートのお願い

明日から実践活用できる情報満載！

この勉強会をきっかけに病気を抱える子どもと家族の
地域支援ネットワークをさらに広げていきましょう。
YouTube ライブ配信チャットにて参加者からの質問も
随時受け付けますので、コメントお待ちしております。

お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

電話：086-289-8528 (事務局)

メール：info@pokesapo.com

勉強会への参加申込方法

下記 URL のイベント特設ページもしくは
「ポケットサポート」で検索して申込フォームから
名前、メールアドレスなどを送信してください。

▼10月23日(土)勉強会特設 WEB ページ
<https://www.pokesapo.com/yb2>

ポケットサポート



事前申込みいただいた方には10月18日(月)と
10月22日(金)にリマインドメールをお送りします。
メール本文内に YouTube 視聴用のアドレスを
お送りしますので必ずご確認ください。



ポケットサポートが目指す社会

病気を抱える子どもたちが 将来に希望を持ち 自分らしく暮らせる社会

1. 環境をつくる

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 生きる力を育む

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 人や気持ちをつなぐ

病気の子どもに関わる人をつなぐコーディネートを行うと
共に社会への理解啓発により支援者を増やしていく

